

1. 資料：電子情報資源への対応

次世代学術コンテンツ基盤ワークショップ「次世代の
目録所在情報サービスを考える」

平成20年6月6日 学術総合センター

東北大学附属図書館 加藤信哉

認識されている問題点 [p.5]

- 電子ジャーナル等の電子情報資源 (e-resources) の大学における急激な普及
- 印刷体資料の「所蔵」を前提として構築されている NACIS-CAT
- 出版社のサーバ等へのアクセスを前提とする電子情報資源
- 電子ジャーナルについてのローカルな検索ツールの整備と提供
- NACIS-CAT/ILLでの電子ジャーナルの検索・ILL 依頼の不都合

電子情報資源管理システム(ERMS)[p.5-6]

- 図書館がライセンスした第三者の電子的に出版された情報資源のコントロールを支援するために開発されたシステムで、ライセンス管理、更新、法定利用、アクセス管理および蔵書構築を含む
- 電子情報資源の目録作成を機能として持っていない

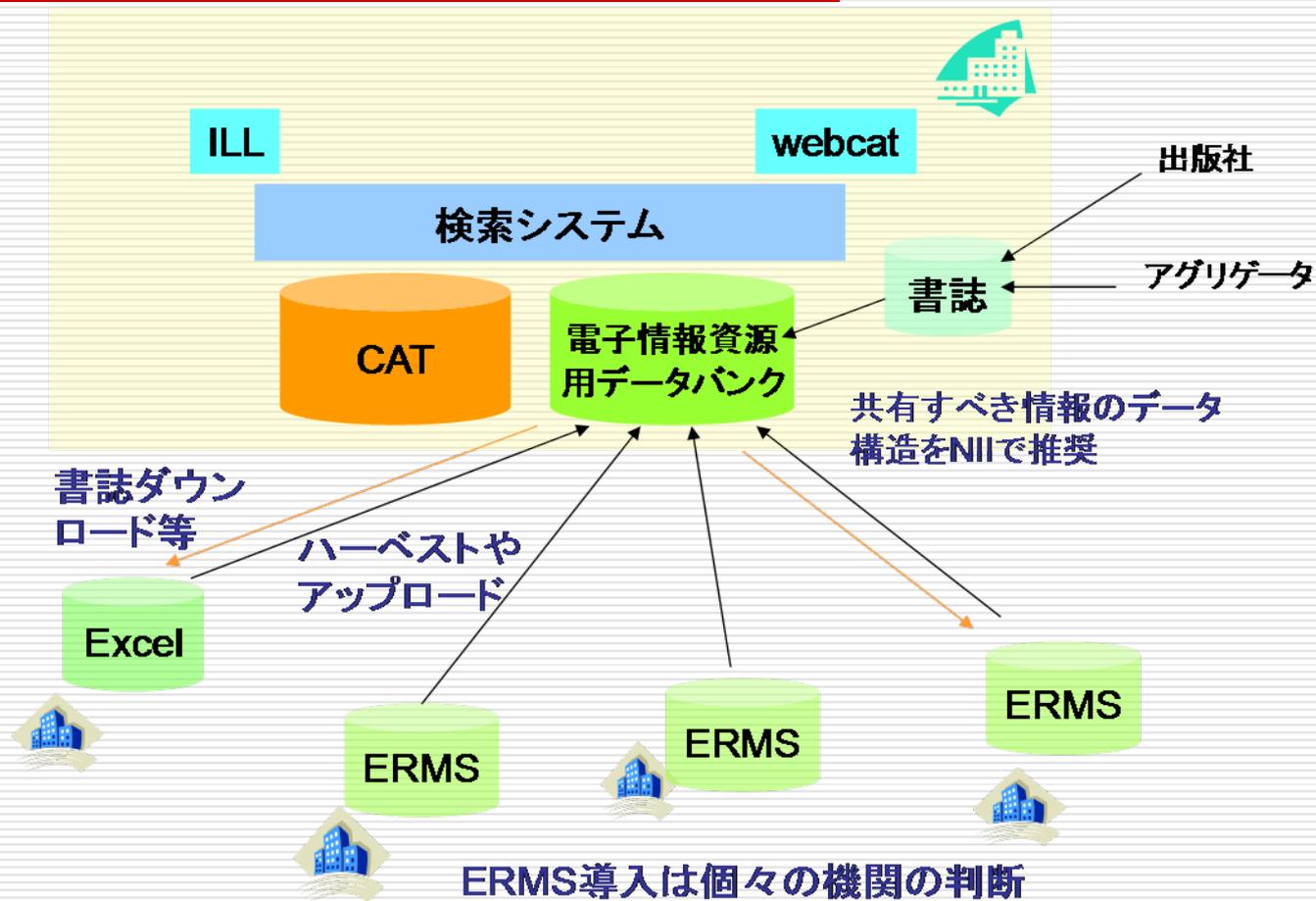
電子情報資源のメタデータ[p.6]

- リンクリゾルバやERMSの知識ベースに含まれる範囲データ(coverage data)として提供
- 範囲データは目録データよりも簡略で提供主体によって範囲や品質がまちまち
- 逐次刊行物の購読情報の電子交換のための標準化の動き: ONIX逐次刊行物プロジェクト
 - SOH (Serials Online Holdings)
 - SRN (Serials Release Notification)
 - SPS (Serials Products and Subscriptions)

次期システムの概念と電子情報資源の取扱い[p.7]

- 次期システム:印刷体資料の「所蔵」と電子情報資源の「アクセス権」の両方を同様に扱える「新しい資源発見システム」
- 有償提供および無償提供の電子情報資源を同列に扱えるシステム構築
- 印刷体、電子の区別や資源の粒度にかかわらず検索と発見が可能なシステム
- NACSIS-CATにアップロードまたはNACSIS-CATからのハーベスティングできる仕組みを保有

電子情報資源管理のモデル(案)[p.8]



今後の課題[p.9]

- 電子情報資源データベースの仕様
- ローカルシステムと電子情報資源データベースとのデータ交換の仕様
- NACSIS-CATと電子情報資源データベースの横断検索システム
- 出版社やアグリゲータからデータを収集する「書誌」の仕様